

活動実施報告書(平成30年度)

名称: 認定こども園 やはた幼稚園

所在地: 下荒田 町 4丁目 19番 番地 10号

電話番号: 099-254-0784 E-mail:

4月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「生き物に興味を持つ」 (年間を通して命の大切さ、自然の面白さを伝える。)</p> <ul style="list-style-type: none">・ピオトープのメダカ・園庭のだんご虫や幼虫等の飼育・観察	 <p>カエルやトンボ(ヤゴが羽化しました!)が巣立っていきました</p>  
取組結果・感想等	
<ul style="list-style-type: none">・冬の間、休眠していた植物の芽吹きや、暖かくなるにつれ活発になる水中の生き物の様子を興味深く観察していた。	

5月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「屋上のお芋畑 ・プランターでサツマイモ栽培」</p> <ul style="list-style-type: none">・苗植え、収穫(11月)までの育ちの観察 <p>「おいしい収穫祭 プラム・梅など」</p> <ul style="list-style-type: none">・もぎたての果実を味わい、自然への親しみや感謝の気持ちを持つ。・梅の実を、年長児が梅シロップを作ること	 <p>僕たち経験者(年長児)は、手馴れたものです!</p> <p>収穫はもう少し後でしたが、今年のサクラランボは見事でした!</p> 
取組結果・感想等	
<ul style="list-style-type: none">・サツマイモを食べた事はあっても、苗を見るのは初めての子も多く、興味津々。年長児には屋上の緑化が温暖化対策に繋がることも話した。・プラムは自分でもいで、採れたてをいただいた。年長児は自分たちに任せられた仕事に得意げ。食と繋がることで自然への興味が一段と増すようだ。	

6月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「緑のカーテン・にがごり栽培」 ・苗を植え、観察やお世話をを行う</p> <p>「幼虫育ててみよう」 ・園庭で見つけたアゲハやツマグロヒョウモンの幼虫の飼育・観察</p>	 <p>ちょうちよの赤ちゃんだって。やさしくしなきゃね</p>  <p>いろんな命。みつけれられるかな？</p> <p>大切じゃない命ってあるのかな？</p>
取組結果・感想等	
<p>・子どもたちが進んで水やりなどのお世話をしてくれた。昨年度頂芽を摘む事手伝いをし、その意味を知っている年長児が年少児に教える姿も見られ、嬉しく思った。</p> <p>・芋虫から蝶への変化に大喜び。はじめは怖がっていた子も進んでお世話をしてくれた。</p> <p>・虫をおもちゃのように扱う子が多いクラスで、「ちいさな生き物の命」に気付けるような保育の時間を設けた。</p>	

7月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「緑のカーテン・にがごり栽培」 ・収穫、試食</p> <p>「水を大切に」 ・雨水をためて植物にあげよう ・プール遊びにちなんで水の大切さを考えよう</p>	 <p>独特のにおい……</p>   <p>好き嫌いの分かれる大人のお味です…!</p> 
取組結果・感想等	
<p>・今年度はにがごりのツルの伸びが悪く、カーテンにはならなかった。しかし花はたくさん咲き、結実も多かった。低い場所にできたので子どもたちも良く観察できた。「花にもオスとメスがあるんだね～。カブトムシと一緒にだね」と年長児。収穫したにがごりは給食で「にがごりチップス」にしていた。</p> <p>・雨水をためておく事を不思議に思い訪ねてくる子が多く、そこで水の大切さや節水の話ができた。</p>	

8月:

取組内容

「水を大切に」

- ・雨水をためて植物にあげよう
- ・プール遊びにちなんで水の大切さを考えよう

取組結果・感想等

職員がプールで使用した水をベビーバスなどにとっておき、その水を植物に与えたり、水遊びに使ったりした。自然と子どもたちから「なぜそうするの?」との疑問がわいたことで、水の大切さや、節水の仕方など伝えられた。水道の水を使うより面白がり、遊びも盛り上がっていた。

節水の絵本を読んだクラスもあり、こまめに水道を止めることを意識する子どもの姿があった。

活動の様子(写真等)



「地球にやさしい水での泥んこ遊びは最高!？」

9月:

取組内容

「野菜をそだててたべてみよう」

- ・ラディッシュをクラスごとに種から育てる、給食でいただく。
- ・給食で使った豆芽。スポンジと種を捨てずに二次栽培。

「エコ電 出発式に参加!」(年長児)

取組結果・感想等

・職員も栽培に慣れていない者もいて、子どもと一緒に「どうしようか?」「どうなってる?」と楽しそうに取り組んでいた。「自分のクラスの野菜」と言う意識が皆あり、良く観察やお世話をしていた。

・収穫の際は歓声。葉っぱまで捨てずにスープに入れてもらい、食べ物の大切さや、いつも何気なく自分たちが口にしているものも誰かが今回の自分たちのように一生懸命育てたものであると話ができた。

・エコ電を通して「地球に良い事を選ぶ大切さ」の話ができた。

活動の様子(写真等)



「見て見て!自分たちでそだてたの!」



飼育しているインコたちがおいしくいただきました!

第二の人生! 菜命?

10月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「自然の変化を楽しもう」</p> <ul style="list-style-type: none">・落ち葉や木の実など、自然の移り変わりに気づき、遊びに取り入れる。・城山登山で自然に触れ、親しむ。	 <p data-bbox="869 721 1225 788">「葉っぱの国のおうさまだぞ!!!」</p>
<p>取組結果・感想等</p> <ul style="list-style-type: none">・落ち葉や木の実を使った製作を楽しんだ。自然物が楽しいおもちゃになった事で、ドングリやきれいな落ち葉が子どもたちにとって「宝物」となった。・落ち葉を拾い、どの木の葉か園庭で探して遊ぶ様子も見られた。	

11月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p>「芋ほり・柿やミカンの収穫」</p> <ul style="list-style-type: none">・自分たちが植え、育てた芋や、園庭で成長を見守った果実を給食で食べることで、食べ物の大切さやありがたさを知る。	   <p data-bbox="1093 1541 1273 1668">お芋を掘るのも力があるね!</p>
<p>取組結果・感想等</p> <ul style="list-style-type: none">・屋上一面にプランターを置いて作ったお芋畑で収穫を行った。(苗植えは5月末)自分たちが植え、育て、収穫したお芋を給食でいただいた。年齢ごとに食べ物のありがたさ、大切さを感じる事ができ、食べ残しをしないようにするという指導に役だった。	

12月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p data-bbox="242 392 518 421">「目指そう! たべのこしO!」</p> <ul data-bbox="242 448 657 537" style="list-style-type: none">・芋ほりや、果実の収穫を通して、食べ物の大切さを考える。・給食のたべのこしO運動。	 <p data-bbox="826 728 1114 795">見事なたべっぷり!!</p>
取組結果・感想等	
<ul data-bbox="236 728 673 985" style="list-style-type: none">・栽培、手入れ、収穫、試食と一連の経験をした子どもたちに、「育てた人の気持ち。」「がんばって育てた食べ物のこと」「作ってくれた人の気持ち」などいろいろな方法でアプローチができた。・給食のだしを取った残りこの佃煮は子どもたちにはちょっと硬め…… 食品廃棄0のアイデアとしては伝えられた。	

1月:

取組内容	活動の様子(写真等)
<p data-bbox="242 1205 406 1234">「資源を大切に」</p> <ul data-bbox="242 1261 434 1440" style="list-style-type: none">・電気・水の使い方・物を大切に使う ・廃材利用で作品展 (作品展へ向けての製作活動開始)	
取組結果・感想等	
<ul data-bbox="236 1585 673 1792" style="list-style-type: none">・寒い冬、暖房を入れた際窓を開けっ放しにしない。うがい手洗いの際は、水を出す量に気を付ける。部屋に誰もいないときは電気を消すなど、職員が良く声かけを行っていた。・廃材製作が活発になり、子ども同士で「これ、何かに使えないかな?」と話し合う姿が見られた。	

2月:

取組内容

「資源を大切に」

・廃材利用で作品展

取組結果・感想等

・今年作品展のテーマを検討した際「子どもと四季を感じられる製作がしたい」と職員から声が上がった。1年の活動を通して、職員も自然への関心が高まったようで嬉しい。

自然を自分たちで作ることで、四季の移り変わりの不思議さや生き物同士の繋がりに興味を持つ子もいた。

廃材を再利用することが地球にも優しい事だと(各学年年りの理解になるが)子どもに伝えることができた。

活動の様子(写真等)



全て、力作です!!
子どもたちが感じた四季が様々な表現で再現されました。
子どもたちが四季をどのようにとらえているのかも興味深かったです。

3月:

取組内容

「まとめ 地球を大切に」

・冬から春への自然の変化から、小さな命を感じる。

・ゴミの分別など意識して行う

・エコ絵本など使い、「自分にできるエコ」を考える。

取組結果・感想等

・学年末の忙しい中であつたが、子どもたちは遊びの中で春の芽吹きを見つけたり、活発に動き出した虫たちに心を寄せていた。

ゴミの分別も「どっちのゴミ?(可燃・否可燃)」と自ら訪ねてくる子もいるようだ。

個人差はあるものの、子どもたちの心に自然と「エコ」が育っているようだ。

活動の様子(写真等)



これ、どっちの
ごみ?

こっちかなあ~



1年間取り組んだ感想・ご意見

子どもたちにとって、エコの意識の始まりは、やはり身近な自然へ興味や愛情を持つことと考え、取り組んだ2年目であった。子どもたちが、じっくり自然と関わる場を設けることで、自ら自然の仕組みや大切に気付く場面が多く見られた。

エコ保育所1年目にくらべ、職員の意識が高まった事も嬉しい事だった。

計画時も様々なアイデアを出し合い、それぞれが思うエコを知ることができた。実際の活動でも【すすんでプールの水を再利用する】【子どもたちに分かりやすい「燃やせるゴミ・燃やせないゴミ」の区別の仕方を考え、職員同士情報交換をする】【自分が答えられなくても子どもの「なぜ?」に楽しげに共感し、寄り添う】などの姿が見られたことを嬉しく思った。

職員のエコへの意識の高まりが子どもたちへの援助に表れ、日常の中で自然と「エコ」を意識することができていたように思う。

職員から「子どもたちが描く絵に自然物が増えた」「動植物の扱いが優しくなった」と言う子どもの変化も聞かれ、今年度もこの活動に取り組んで良かったと思った。

「次は☆3つだ!」と子どもたちも張り切っています。

良いきっかけの場を与えてくださり、ありがとうございました。エコ電の出発式も大喜びで、「電車を出かけると地球に良いんだって!」と話してくれた子もいました。様々なことからエコを考え、実践できる子どもたちになってほしいものです。